

2023年8月18日

各位

会社名 GMOメディア株式会社  
代表者 代表取締役社長 森 輝幸  
(コード番号 6180 東証グロース)  
問い合わせ先 常務取締役 石橋 正剛  
管理部門統括  
TEL 03-5456-2626

## 2023年12月期 第2四半期決算 質疑応答集

2023年8月3日に公表した当社の2023年12月期第2四半期決算に関し、公表以降に株主様、投資家様などの方々から頂戴したお問い合わせ、感想につきまして、その内容と回答を以下の通りお知らせいたします。なお、ご理解いただきやすいよう、一部内容の加筆・修正を行っております。

Q：2023年12月期 第2四半期をどう評価されていますか。

A：投資育成事業と位置付けている教育・美容医療関連事業が好調といったことも寄与し、前年同期と比べて特に利益面において大きく伸長しました。メディア事業における投資育成事業の売上総利益が全体の26.0%(前年同期比+66.4%)と、事業ポートフォリオの構成比においても存在感を出してきています。当社の特徴として、先見の明をもって事業ポートフォリオを最適化することが挙げられますが、バランスよく事業を進められていると評価します。

Q：第2四半期時点で営業利益の通期予想が87.8%まで進捗しているものの、下期に投資予定もあり見通しは据え置かれるとのことですが、具体的にどのような投資を検討しているのでしょうか。

A：今後さらに採用を強化していく予定です。また、投資育成事業においては開発の推進とプロモーションも予定しているので、来期を見据えた投資を下期に行っていく予定です。

Q：第2四半期における営業利益率が、2022年12月期第2四半期4.3% → 2023年12月期第2四半期9.8%へと大きく改善した理由を教えてください。また、将来的に目指す営業利益率の目標と、その利益率を達成するために実施する施策があれば教えてください。

A：利益率の高いコエテコ事業（社会人ジャンル）の拡大が営業利益率の押し上げに寄与しました。我々の事業は、売上の拡大に伴い、原価・販売管理費が比例するものではないので、中長期的にはまだまだ営業利益率に関しては拡大できると認識しており、引き続き業務効率向上やコストコントロールに努めてまいります。また、現在投資育成中の成長領域事業の本格的な収益獲得フェーズ移行後、より高い営業利益率を目指せると見込んでおります。

Q：好調の美容医療事業（キレイパス）について、御社で認識する競合企業はあるでしょうか。その競合企業に対する優位性もあれば教えてください。

A：類似サービスは複数ありますが、日本国内におけるクリニックとの提携数や施術チケット数等において当社サービスの規模が大きく、ユーザーならびにクリニックの利便性といった面で特に優位性があると認識しています。

以上